資料1

令和6年度芦屋市自立支援協議会　実務者会の進捗状況について

1.今年度の取組み内容と進捗状況

今年度の取組みは以下の内容でスタートした。

① 令和3年度スタートの新実務者会・専門部会システムから3年経過している。現在の実務者会、専門部会のあり方について振り返り、柔軟な発想で芦屋の部会制度について再度考える。

② 過去の芦屋市自立支援協議会での取組みについて振り返り、評価を実施する。

③ 課題抽出の仕組みである“座談会”でより多くの方から意見をいただくための工夫について検討する。

しかし、今年度スケジュールを検討する中で今年度は①②に取組みについて深め、現在新たなシステム案を作成している。

2. 開催経過（予定）と協議内容

	日時	場所	内容
事前説明	令和6年 5月23日	芦屋市保健福祉センター	今年度、新たに構成員になっていただく方へ前年度の報告と今年度の取組みについて説明会を実施。
第1回	令和6年 5月30日	芦屋市保健福祉センター	前年度の議論を振り返り、上記の①②③の計画について今年度の取組み方針を検討。③の座談会実施については、今年度は根本的に見直しの年とし、座談会の実施は見送ることとなった。
第2回	令和6年 6月25日	芦屋市保健福祉センター	新システムになった過去の経緯を知らない新しい構成員も見直しの議論に参加できるように議論の土台を共有し、令和3年度に現在の仕組み（PDCA の実践）に変更した根拠について振り返った。現在変更の根拠となった課題の解消ができているか検証を行った。
第3回	令和6年 7月25日	芦屋市保健福祉センター	第2回の検証結果に基づき、さらに各部会の役割やシステムを進化させるための取組みを具体化するために、構成員にプランを事前に考えていただき、会議に持ち寄ってもらった。 その各プランについて議論を行い、取りまとめて全体の意見として以下のように、今年度の取組み方針の基本案をまとめた。 1. 自立支援協議会の担い手を増やすために、自立支援協議会の役割や実績について周知する方法を検討、あるいは実践する。例えば SNS などの活用など。 2.　今までの座談会をより良いものにするために、座談会の工夫やその他の意見収集の仕組み等を用いてより多くの人からの課題抽出するための方法について検討する。教育・福祉の支援者からの意見収集の仕組みを検討する。 3.　「やりっぱなし」にしないため検証を行う。そのための評価について検討する。例えばその対象と方法、時期等についてなど。
8月7日　第1回本会議にて　進捗報告			

第４回	令和６年 ８月27日	芦屋市保健福祉センター	「お題1：担い手の不足解消」「お題2：広く当事者から地域課題を聞く」「お題3：取組みをやりっぱなしにしない」ための取組み案として、①自立支援協議会の周知、②目安箱、オンラインフォームを活用した意見集約、座談会の改良。③やりっぱなしにしないための評価・検証システムに取り組むという基本方針のもと、具体的にどう取り組むかについて検討を実施した。 【自立支援協議会の周知について】 ① 傍聴の案内については継続する。 ② 各事業所作成の既存の名刺に肩書を記載することを許可。その場合の要項について市で作成。市で検討したうえで進める。 ③ 周知ツールとしてカードを作成する。あしやねっとの紹介カードの裏に自立支援協議会のSNS、WebサイトのQRコードを印刷する。（費用原資は別途協議） 【広く当事者から地域課題を聞くことについて】 ① 目安箱の設置を検討する。QR コードからアクセスできるフォーム作成し、広く地域課題を集める方法を作る。運用、集約、活用の方法は検討する。 ② 座談会については次年度の開催要項案を作成。 【やりっぱなしにしないことについて】 ① PDCA サイクルの見直しを今年度のメインとする。 ② 今までの専門部会での取組みに対する評価の進め方を検討する。 ③ 来年度の専門部会の取組みとして過去の取組みの効果について調査し、評価してもらってもよい。 上記の話し合いを基に、今年度今後のスケジュールについて決定した。
第５回	令和６年 ９月24日	芦屋市保健福祉センター	広く意見を聞くためにフォームの活用について詳細議論をし、一般市民を対象にWebフォームを作りQRコードを広報あしやに掲載。集まったアンケート結果を評価し、次の取組みに活用することとなった。 ＜決定したフォーム作成原案＞ 当事者、家族、支援者もさることながら一般の人たちも対象に実施する。 テーマ：自立支援協議会を知ってもらう。過去の実績の説明をしておく。福祉関係者以外の人でも答えやすいものにする。 項目：年齢・性別・住所・所属・障がいのある人が身近にいますか・イベント参加したことがありますか 質問：あなたにとって「みんなにやさしい芦屋」とはどんな街でしょうか。
第６回	令和６年 10月28日 木下先生 SV	芦屋市保健福祉センター	PDCA サイクルの「C」。評価とは何かを明らかにし、新PDCAサイクルの素案をまとめるための議論を行い、木下先生からの SV を受けた。 木下先生から評価に関して以下の講評をいただいた。 *「自分たちが取組んできたものが当初の計画通りにできたか、地域課題の解決に結びついているかという「品質評価」という側面と、実務者会と専門部会という仕組みでうまく動けたか、連携できていたか、満足できたかという「組織評価」の２軸があるのではないか？」* 上記の木下先生からの SV をもとに次回、

			・ 実務者会と専門部会の連携をどんな仕組みによって改善していくか？ ・ 評価の2軸。その評価をどう仕組み化するか？ ・ 次年度座談会開催の計画案作成。 を次回検討することとなった。
第７回	令和6年 11 月 26 日	芦屋市保健福祉センター	前回の会議内容を踏まえて、次年度以降の実務者会・専門部会の仕組み案について検討した。 ・ 実務者会の構成員が次年度の取組みを企画してそのまま次年度の取組みを担当することとする。（実務者会＋専門部会で実質2年任期） ・ 実務者会から専門部会への移行の際に構成員の専門性にとらわれず、専門性が異なることによる多視点で評価できる仕組みを維持する。また、実務者会から専門部会への任期移行も強制するものではない。 ・ 実務者会・専門部会がそれぞれどのように進められているか確認、意見交換のためにも合同会議を開催することとする。 ・ 専門部会において自己評価を行う。実務者会での評価は実施せず、座談会等を通じて課題としてあがってこなくなったことで課題解決済みと評価する。 次年度の座談会実施案については ・ 相談員、事業所職員、教育関係などによる地域課題についての意見交換会を開催し、取り上げるべき取組み課題について検討を進める。 ・ 告知期間を十分に設け、当事者や一般の方向けの座談会を9月以降に開催する。 ・ 目安箱、フォームなどによる意見が集まる仕組みを併用する。 上記3つの課題の聞き取りの結果、12月ごろから最終的に次年度取組み案を検討し、具体化する。
12 月 26 日　第 2 回会議にて進捗報告			
第８回	令和６年 12 月 23 日 （予定）	芦屋市保健福祉センター	・ 実務者会と専門部会の仕組み・連携の文書化。 ・ 次年度座談会の具体案作成。 ・ 過去の取組みに関しての評価の具体策。 について検討する予定。
第９回	令和７年 1 月 28 日 （予定）	芦屋市保健福祉センター	次年度の専門部会に渡す具体的な課題について抽出方法を検討する予定。 新たな実務者会、専門部会の仕組み案を作成する予定。
第 10 回	令和７年 2月 25 日 （予定）	芦屋市保健福祉センター	新たな実務者会、専門部会の仕組み案を作成する予定。
第 11 回	令和７年 ３月（予定）	未定	木下先生との振り返りと取組みの評価予定。
３月　第３回本会議にて報告（予定）			